

かざね  
四万十の風音

しんせん  
森&川だより

## 東中筋小学校でシイタケの駒打ち体験

1月16日、四万十市立東中筋小学校の「山の学習」で、五年生22名を対象にシイタケ栽培の体験学習を指導しました。

はじめに「森林のはたらき」についてパネルを使って説明して、森林の大切さを知ってもらいました。

次に、きのこの種類や毒きのこ、シイタケ栽培の方法等をスライド形式で説明しました。

その後、校庭に出て、実際に駒打ちを児童に体験させました。最初に電動ドリルの使用方法やチョークを使って原木に千鳥状にマーキングしてからの穴開け方法や作業の注意点等を実演を交えて説明した後、6班に分かれて作業を行いました。みんなが互いに協力しあうことで、初めてにしては要領良く作業を進め、長さ1メートル、末口径約10センチメートルのクヌギ原木に1本当たり20箇所の穴を開け、シイタケ菌の詰まった「種駒」を金槌や木槌で打ち込み、約1時間でほだ木50本を完成させました。



児童からの終わりの挨拶の中で、「電動ドリルを使った穴開けは初めてだったので少し緊張したけどよい経験になりました。」「シイタケが生えるのがとても楽しみです。」との感想がありました。

今回のシイタケ栽培を通して、児童達が、森林や林業・地域の自然や生活に関心を持ち、理解を深めてくれることを期待しています。



原木をpushさえちよってね



電動ドリルで穴開けの様子



シイタケの種駒打ちの様子



シイタケの種駒打ちの様子

## 日本一あつい地区、冬は一転して銀世界 さむ〜い

1月22日～23日にかけて全国的に冬型の気圧配置が強まり大荒れの天気となりました。2013年8月12日、アメダス江川崎観測所において、日本国内における観測史上最高気温となる41℃を記録し、また、翌13日にも40℃を観測し、全国で初めて40℃台を4日連続で記録したことで、日本一あつい地区となった四万十市西土佐江川崎ですが、江川崎のすぐ隣の、西土佐西ヶ方の四万十川森林ふれあい推進センター庁舎のある付近でも約10cmもの積雪があり一面の銀世界となりました。夏と冬の気温差はかなりすごいです。



四万十川森林ふれあい推進センター庁舎



四万十市西土佐西ヶ方、さむ〜い



四万十市西土佐江川崎、あちち



# 平成28年度ニホンジカの捕獲実績 (平成29年2月末現在)



当センターでは、高知県四万十市の黒尊山国有林周辺、愛媛県滑床山国有林周辺において、ニホンジカ被害地の森林再生、植生回復事業に取り組んでいるところです。囲いワナについては、現在19基を設置して捕獲に努めています。

捕獲場所	合計
黒尊山国有林周辺 (高知県)	28
滑床山国有林周辺 (愛媛県)	6
合計	34

## 三校で木工クラフト学習



三校で、「紙芝居（森）自動版のお話」

2月3日に大月町立大月小学校で二年生30名、2月9日には松野町立松野南小学校の二～五年生計6名、2月22日には宿毛市立橋上小学校の一～二年生計9名を対象にした木工クラフト学習を行いました。三校では、最初に紙芝居「森」のお話で木や森林の大切さを知ってもらいました。次に、大月小学校では、桃の節句も近いことから、「ひなまつりにちなんだ置物づくり」をしました。

先に作り方を説明して、お内裏様とお雛様飾りのセットに切り抜いたスギ板のパーツを、児童達が見本を参考に自由に色ぬ



りをし、ボンドでヒノキの台座に貼り付けて作品が完成しました。なお、大月小学校には地元のケーブルテレビがこの様子取材に来てくれ、その放送を見た橋上小学校より、当校でも是非実施してほしいとの依頼を受けて行ったものです。



また、松野南小学校では、この1年間に小学校がお世話になった地域の方々に感謝する「ありがとう集会」で、お礼のプレゼントとして贈呈するスノコの作製、また、自分用には愛媛県のゆるキャラ「みきゃん」のストラップを製作をしました。各学校の児童達は、夢中になって製作しそれぞれの作品を完成させました。児童達から感想の発表があり、「紙芝居を見て木や森林の大切さがわかりました。」「作ったお雛様は家族に見せて家の玄関に飾りたいと思います。」と嬉しそうに話してくれました。





今回の木工クラフト製作を通じ、木の持つ温もりや素材としての木材の良さを身近に感じてもらえたと思います。





## 身近な材料を使って簡易な方法での炭焼きを体験

2月15日に宿毛市立小筑紫小学校の五年生10名を対象にした今年度第5回目の森林環境教育として炭焼き体験を実施しました。

はじめに、炭の種類や利用方法、炭の特性について説明しました。続いて炭焼き体験です。児童達は職員から手順や注意点を聞き、ブリキ缶の中にもみ殻とマツボックリやドングリ、折り鶴など自分達で作った物を詰めてドラム缶のたき火の中へ並べました。そして、アルミホイルに包んだイモが炭になるかどうか合わせて実験しました。

炭になるまでの待ち時間で色々な炭の実物を観察させて、白炭と黒炭を使った実験をしました。ノコギリを使っての切断では黒炭は簡単に切れたのに、白炭は堅くて切断することはできませんでした。

また、白炭の備長炭を木のバチで叩くと「チンチン」と鉄琴のような綺麗な金属音がして児童達や先生も驚いていました。

約30分経って、たき火の中からブリキ缶取り出しです。冷めるのを待つ間にアルミホイルを開けると、イモは皮の表面だけが黒く焼け、残念ながら炭にはならず実験は失敗で「焼き芋」となってしまいました。冷えた缶を開けると折り鶴やドングリ、マツボックリなどは実験成功でちゃんと「炭」になっていました。

その後、児童達より観察や実験、体験を通してわかったことや感じたことをワークシートにまとめて発表してもらいました。最後に児童達から、「今までの森林学習を通して、森林の大切さ、自然の大切さ等がよくわかりました。」「燃焼や炭化など教科書で習ったことを実験や体験を通して学習することが出来たので理解に繋がりました。」とお礼の挨拶がありました。

当所としてもこれらの年間活動を通して、森林の大切さや木材利用についての理解を深めてもらえたものと考えます。



白炭



黒炭



竹炭



オガ炭





炭の観察・実験の様子



「炭のお話」の様子



ブリキ缶を開けると炭になってたよ



簡易な方法での炭焼きの様子

## 西土佐小学校の卒業記念に木製プランターの木枠を製作

四万十市立西土佐小学校より、「六年生が卒業記念として卒業式でお披露目するプランターの木枠を製作したいので児童に指導してもらいたい。」との要請を受け、3月7日に六年生20名を対象にした木工教室を開催しました。

事前に、小学校が所有するスギ板を当所でお預かりして、プランターの木枠製作用の各パーツに加工しました。

木工教室では最初に、プランターの木枠製作の材料であるスギやヒノキについて説明しました。次に、金槌で釘の打ち方や木枠の組み立て方法、作業をする際の注意点について、実演を交えながら説明をしました。

その後、児童は2人1組になり協力しあって、金槌で釘を打ち、プランターの木枠をうまく完成させることができました。

最後に、児童の代表より、「良い卒業記念の木工作品が出来ました。」とお礼の挨拶がありました。



今回のプランターの木枠製作を通して、木の持つ温もりや素材としての木材の良さを身近に感じてもらえたと思います。

当所としても、地元小学校の要請に応えることができた良い一日となりました。



う～んこうかな



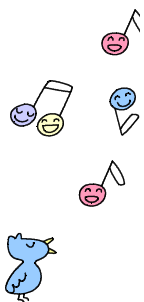
プランターの木枠作りを指導



できたよ



ここ押さえて、打つよ



林野庁 四国森林管理局  
四万十川森林ふれあい推進センター  
高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2  
電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031

